

告知事項 1 下表に該当する病気について、過去に一度でも診断(治療が必要ないおよび疑いがある場合を含みます)されたことがあれば告知が必要です。

告知事項 2 お申込みのペットが猫の場合は、項目No.12をご確認のうえお答えください。



...犬の病気



...猫の病気

No.	病気の分類の具体的な病気の例	告知にあたっての注意事項	(ご参考)病気の概要
1	心疾患 心不全、弁膜症(僧帽弁閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症)、心筋症(肥大型心筋症、拡張型心筋症)、狭心症、心内膜炎、先天性心疾患(動脈管開存症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症)、不整脈、心肥大・拡大、心雑音(無害性のものを除く)	治療が必要ない場合でも、「心臓が大きい」などと診断されたことがあれば告知が必要です。 告知事項 1 の「はい」を選択してください。	心臓の病気全般を指します。心機能が低下すると全身に酸素を含んだ血液が十分にいきわたらなくなり、咳や運動不耐(お散歩を嫌がる、疲れやすいなど)などの症状が現れます。
2	腎疾患 腎不全、腎結石、水腎症、腎のう胞、腎炎(腎う腎炎)、ネフローゼ、先天性腎疾患(腎低形成)	腎臓の血液検査数値の異常(例:腎臓の数値が高い)について診断名が不明な場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.24をご確認のうえ、詳細をご入力ください。	腎臓の病気全般を指します。腎機能が低下することでおしっこが正常に作られなくなり、多飲多尿や貧血などの症状が現れます。
3	副腎疾患 クッシング症候群(副腎皮質機能亢進症)、アジソン病(副腎皮質機能低下症)	—	副腎の病気全般を指します。副腎から分泌されるホルモンのバランスが崩れることで、多飲多尿や脱毛などの症状が現れます。
4	肝胆疾患 肝不全、肝硬変、肝機能障害、肝炎、胆のう炎、胆管炎、胆泥症、胆石症、胆のう粘液嚢腫	肝臓・胆のうの血液検査数値の異常(例:肝臓の数値が高い)について診断名が不明な場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.24をご確認のうえ、詳細をご入力ください。	肝臓および胆のうの病気全般を指します。肝機能が低下することで代謝や解毒ができなくなり、食欲不振・嘔吐・多飲多尿などの症状が現れます。
5	糖尿病 糖尿病、糖尿病性ケトアシドーシス	血糖値の異常 について診断名が不明な場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.24をご確認のうえ、詳細をご入力ください。	糖を代謝するホルモン(インスリン)の異常によって、血糖値が上がってしまう病気です。多飲多尿や食欲不振などの症状が現れます。
6	フィラリア感染症 フィラリア症、大静脈症候群	症状がない場合でも検査結果が「陽性(弱陽性も含む)」の場合は告知が必要です。 告知事項 1 の「はい」を選択してください。	蚊が媒介する感染症で、犬糸状虫(フィラリア)が心臓や血管に寄生する病気です。咳や運動不耐性(お散歩を嫌がる、疲れやすいなど)などの症状が現れます。
7	悪性腫瘍 癌(がん)、腫瘍(良性を除く) ・〇〇癌(例:扁平上皮癌、移行上皮癌) ・〇〇肉腫(例:血管肉腫、平滑筋肉腫) ・〇〇腫(例:悪性黒色腫(メラノーマ)、リンパ腫、肥満細胞腫)	完治している(抗がん剤治療、手術で摘出済みなど)場合でも告知が必要です。 告知事項 1 の「はい」を選択してください。	いわゆる「癌(がん)」のことで、腫瘍の中でも特に悪性度の高いもの(転移しやすい、どんどん大きくなるなど)を指します。
8	脳・神経系疾患 脳炎、髄膜炎、脳梗塞、前庭疾患、椎間板椎炎、変性性脊髄症、肝性脳症、先天性脳・神経疾患(水頭症、キアリ様奇形)、神経症状 ※てんかん、椎間板ヘルニア、環軸不安定症については右欄をご確認ください。	てんかん、椎間板ヘルニア、環軸不安定症 がある場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.25~27をご確認のうえ、詳細をご入力ください。	脳および神経の病気全般を指します。脳や神経の異常によって、発作・斜頸・歩行異常などの症状が現れます。
9	甲状腺疾患 甲状腺機能亢進・低下症、上皮小体機能亢進・低下症	—	甲状腺および上皮小体の病気全般を指します。甲状腺や上皮小体から分泌されるホルモンのバランスが崩れると、体重変化(増加/減少)・興奮/沈鬱などの症状が現れます。
10	ホルネル症候群 	—	目の周りにある交感神経の異常によって起こる病気です。瞳孔が小さくなる、まぶたが垂れさがるなど、目や目の周りにさまざまな症状が現れます。
11	猫伝染性腹膜炎(FIP) 	—	感染猫の排泄物などによってうつる、猫コロナウイルスによる感染症です。発熱や陶水貯留などの症状が現れます。
12	猫免疫不全ウイルス感染症(猫エイズ、FIV) 	—	感染猫とのケンカなどによってうつる、猫免疫不全ウイルスによる感染症です。無症状の期間を経て、発熱や口内炎などの症状が現れます。
13	猫白血病ウイルス感染症(FeLV) 	—	感染猫とのケンカなどによってうつる、猫白血病ウイルスによる感染症です。貧血や免疫不全などの症状が現れます。
14	パベシア症 	病状がない場合でも検査結果が「陽性(弱陽性も含む)」の場合には告知が必要です。 告知事項 1 の「はい」を選択してください。	マダニが媒介する感染症で、パベシア原虫が血液(赤血球)に寄生する病気です。貧血や発熱などの症状が現れます。
15	ヘモプラズマ症(旧:ヘモバルトネラ症) 	—	感染猫とのケンカやマダニの寄生などによってうつる、マイコプラズマが血液(赤血球)に寄生する病気です。貧血や発熱などの症状が現れます。

注意事項

過去に1度でも上記の病気と診断された(および疑いがある)場合は、ご契約をお引受けできません。